

# ソウルの街づくり提案 ～バランスの取れた公園づくり～

史 中超 研究室  
0931245 姜 沃亨

## 1. 研究背景と目的

ソウルは韓国の首都であり、持続可能な都市を作るために、あらゆる面でバランスよく発展させなければならない。本研究はソウルの公園緑地に着目し、研究を行うことにした。

ソウル市の公園緑地の多くは郊外に作られており、市街地の公園が少ない[1]。バランスの取れた街づくりを推進するには、ソウル市の公園緑地計画において住民が家の近くで便利に利用できる公園をバランスよく作る必要がある。

しかし、ソウルの市街地の地価が高いため、大きな公園緑地を確保することが難しい。そのため、本研究では、小規模の空き地を活用して小さな公園を作り、公園緑地として増やすことを提案する。

## 2. ソウル市公園緑地の現状

### 2.1 世界の1当たりの公園比率

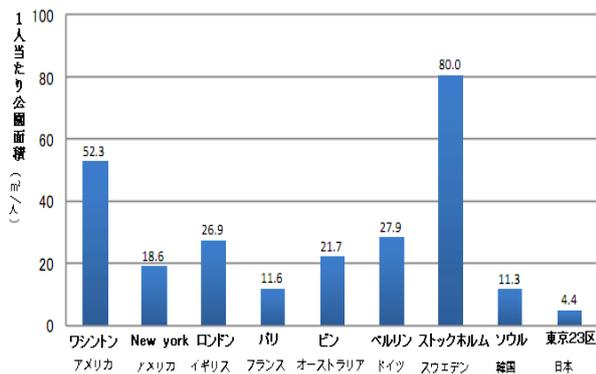


図1 世界の一人当たり公園面積[1]

図1は世界の主要国の一人当たり公園の面積を示す。そのなか、スウェーデンのストックホルムが1人当たり80 m<sup>2</sup>でもっとも多く、アメリカのワシントンDCが1人当たり52.3 m<sup>2</sup>でその次で、韓国のソウルが11.3 m<sup>2</sup>で、ストックホルムの7分の1程度しかない。

### 2.2 自治区別公園の現状



図2 ソウルの公園面積比率

ソウル市の各自治区別公園面積の現状を見てみると、主にソウルの郊外に位置する瑞草区、冠岳区、恩平区、蘆原区、道峰区、江北区の公園面積が全体の公園面積の約51%を占め、ソウル市全体公園面積の半分以上を占めていることが分かる。これは、郊外に土地の確保がしやすく、比較的に広い都市自然公園が作られているからである。一方、ソウル都心にある城東区、東大門区、麻浦区、陽川区、衿川区、永登浦区などは公園の面積が非常に少ない。1人当たりの公園面積においても、郊外の瑞草区、恩平区、江北区、蘆原区、道峰区はソウル市の平均面積をはるかに上回っているが、中心部にある永登浦区、東大門区、城北区などでは、3 m<sup>2</sup>にも満たさない。こういった公園分布のアンバランスが都市生活の質に影響を及ぼしていることが明らかである。

## 3. ソウル市公園緑地政策における問題

### (1) 利用可能な公園の不足と分布の不均衡

ソウル市の都市公園と国立公園の全体の70%が郊外にある。都心内の児童公園、近隣公園、小公園などは区ごとに不均等に分布しており、実際に住民が簡単に利用できる公園は不足し、偏在している。

## (2) 未開発公園用地の開発の制約

公園用地のうち未開発された公園の多くが開発の難しい高い丘陵地に位置している、もしくは私有地への土地補償問題で開発できないている。ある土地が公園に指定されたとしても、開発できないなどの問題が解決しない限り公園として機能しない。そのため、政策の転換が求められている。

## (3) 様々なテーマの都市公園の不足



図3 濟州島迷路公園[3]

公園利用の活性化のためには施設の設置だけではなく、公園利用者のため地域の特性を生かした特色ある公園づくりが求められている。例として、濟州島にある迷路公園が挙げられる。迷路公園は言葉通り迷路の設計が人気を集めており、観光スポットにもなっている。

## 4. 公園緑地の増設への提案

### (1) 公園緑地の増設

都市公園の確保のために、木を植えるスペースに市民が直接木を配置するなど、直接設計と施工管理する市民参加型の事業で小規模の空き地でも都市公園化する。また繁華街の公共施設や代替資源を公園や緑地として積極的に確保する。

### (2) 環境保全を重視した緑地のネットワーク化

景観、生物の移動経路、風の道、公園システムなどを統合する概念として環境軸を設定し、環境の複合機能を考える。都市開発が予想される空間と都市公園を中心に河川の緑化など資源を積極的に開発して全体的に連携させる。生態が安定するように維持して緑地の質を向上させる。さらに水辺の生態系を復元し、野生動物の生息地を確保して、周辺の公園や緑地と繋ぐなどの生態系の回復を図る。

## (3) 公園緑地管理システムの改善

都市公園は全体的に足りなくないが、未設備または老朽化した公園が多いため、既存の公園を効率的に活用できるシステムを作るべきである。公園、公共サービスとしての役割を果たすには、効率的な利用と管理プログラムを通し、良い公園緑地を供給するようにする。法定都市公園や緑地を確保するのは難しい既成市街地で効果を得られるように、公共の建物の屋上や壁面緑化を実施し、既存の道路を緑化させた道路に変えたり、道路の遊休地を活用した緑化事業を実施する。

## (4) 市民と一緒に行う緑地づくり

都市管理における市民の参加は必須条件である。特に都市づくりのように市民の力が決定的な領域では、市民の興味や参加ができるようにさまざまな方法でイベントなどを開くようにする。

## 5. まとめ

ソウル市の公園緑地の多くは郊外に偏っており、市街地の公園が少ない。バランスの取れた街づくりを推進するには、公園緑地計画において住民が家の近くで便利に利用できる公園を作る必要がある。しかし、ソウルの市街地の地価が高いため、大きな公園緑地を確保することが難しい。そういった背景のなか、本研究では、小規模の空き地を活用して小さな公園を作り、公園緑地として増やすことを提案した。

公園は作っただけで終わりではない。公園までの道は緑を感じさせるように街路樹の造成、壁面緑化、屋上緑化など道路によって断絶された緑地空間を繋ぐための政策実行が必要である。また、市民と一緒にイベントの開催や管理も持続可能な公園づくりに必要不可欠である。

## 6. 参考文献

[1]環境日報 <http://www.hkbs.co.kr>

[2] 2011年、ソウル市都市基本計画の概要  
<http://www.sdi.re.kr/seoul/default.asp>

[3]濟州島 迷路公園 <http://www.jejumaze.com>